



すず風...2,200円 (お祝い物付)

すず風...1,650円

※ 献立は仕入れの事情により、一部変更させていただく場合がございます。 ※ お米は国産米を使用しています。



すず風...1,100円

その感性を澄まして夏を満喫する愉しみは、
私たちに与えられた素敵な贅沢と言えるでしょう。

肌を感じる涼しさだけではなく、
景色や香り、そして音にも「涼」を見いだす
日本人が昔から持つ繊細で豊かな感性。

遠方の山々から木々を渡る葉騒や蝉の声、
そして打ち水された庭の縁には涼やかな風鈴の音。
足下からは命に溢れる草の香りを感じながら
木陰に椅子や卓を持ち出して午餐のひととき...

夏のお弁当のご案内
すず風

〒891-1304
鹿児島市本名町855-12
電話099-(294)2500
鶴鳴館 鶴家



鶴家から大切なお客様へ感謝を込めて

鶴鳴館

鶴家

2020

7月号

鶴の恩返し



六月燈

鹿児島の夏の風物詩といえば六月燈ですよね。私は照国神社から半径500m以内に住んでいたため、18歳で県外に出るまで、六月燈は日本全国で行われているのだと思っておりました。

同じようにラール(黒板消し)も全国共通の言葉だと思っておりました。

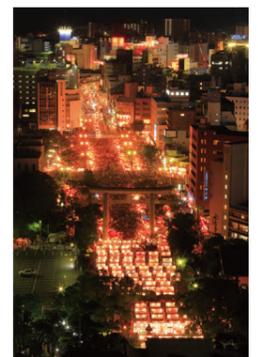
これは鹿児島共通だからまだましですが、我が家では、大晦日に年越しそばを食べる時は言葉を発してはならず、だまって食べなければなりません。最近の恵方巻でやっているあれです。

県外に出てから大晦日の時にその話をしたら「なにそれ?」と言われたので、鹿児島だけの風習なのかな?と思い地元の友達に聞いたら同じように「なにそれ?」と言われ、我が家だけの「しきたり」だったことを知り愕然としました。その家だけの文化があるっていうのもなかなか面白いですね。

話が脱線したので戻します。今回は地元で根差した六月燈についてその由来を調べてみました。

島津19代藩主光久(1638年~1687年)が上山寺新照院の観音様のお堂を造立して参詣した折、たくさんの燈籠をつけさせたところ、人々の寄進も多くなり参拝者も増えたそうで、その後、家臣や領民たちが藩主に倣って、各地の神社や観音堂に燈籠を奉納したのが始まりだそうです。ちなみに光久という殿様はあの世界文化遺産の仙巖園も造られたお殿様です。幕末の国父、久光公は勿論知っていますが、光久公は知りませんでした。

しかしながらいつの時代も名君ぞろいでしたね島津家の方々は。



今年はコロナの影響でどうなるのかわかりませんが、例年だと7月1日清水町の八坂神社をかわきりに県内各地の神社や寺院で行われます。「ろっがっどー」に行って冷えた経済、落ち込んだ雰囲気を天岩戸開きのように、暗い世の中がパッと明るくなることを祈念して参拝しましょう!

従業員紹介



小山 光義

会長の小山光義です。
いつも大変お世話になっております。

弊社も創業123年、株式会社設立102年となりました。
私は日立マクセルという会社で設計の仕事をしておりましたが平成3年、ちょうど30歳の誕生日にこの会社に入りもうすぐ30年になります。とてもたくさんの方のお世話になり助けていただきながら会社も私もここまでやってこられたと思います。

今、新型コロナウイルスで大変な時期です。長い歴史の中でいろいろな苦難を克服しここまで続けてこられたのも皆様方に支えていただいたおかげだと思います。今回の大不況もいつまで続くかわかりませんが乗り越えられるよう頑張ります。

これからも何かの折に鶴家をお気にかけていただきご指導いただけたらありがたいです。

これが気になる

世の中の気になることを
ピックアップ

よく似た2つの違いがどこにあるのかわかりますか？

■ビスケットとクッキーの違い

日本では、ビスケットは、焼き菓子全般に対して使われます。クッキーは、ビスケットの中でも「手作り風の外観を持ち、原材料の中の糖分と脂肪分の合計が40%以上含まれるもの」と定められています。

■お汁粉とぜんざいの違い

お汁粉とぜんざいの違いは関東と関西で異なり、関東では、汁気のあるもの全般を「おしるこ」、汁気のない餅にあんこを添えたものを「ぜんざい」と呼んでいます。関西では、こしあんを使った汁気のあるものを「おしるこ」、粒あんを使った汁気のあるものを「ぜんざい」、汁気のないものを「亀山」や「金時」と呼ばれています。

■カレー南蛮とカレーうどんの違い

大きな違いは、長ネギが入っているかどうかです。「南蛮」とは江戸時代、「唐辛子」や「ねぎ」のことを呼んでいました。そば屋では「南蛮」のことは「ねぎ」を指すということです。したがって、「～南蛮うどん」とは「ねぎが入っているうどん」というわけです。「カレーうどん」は、ねぎの代わりに玉ねぎを使うことが一般的だそうです。



お客様の声



エリア内の配達してくれるお店で節句のお弁当を扱っている所が少なくインターネットで検索したところ鶴家さんを見つけ注文した。

初節句だと伝えると写真を撮ってプリントしてくれるサービスもあり良かった。事前に確認の電話があり、配達に来た人もとても丁寧だった。かなり好印象！

お褒めの言葉を頂き有難うございます。写真のサービスは、今のご時世で両家の皆様が集まる機会は殆どないでしょうから、皆さんが集まり祝ってくれた思い出の証拠写真は後々その子にとって宝物になるだろうと思いから、ただ弁当を配達するだけでなく何かお手伝い出来ないかと思い始めました。なにか機会がございましたらぜひお声かけ下さい。



コトのはじまり

盆栽

中国で唐の時代に行われていた「盆景」が平安時代に日本へ入ってきたのが始まりでした。

能には『鉢木』の演目があり、鎌倉時代には武士階級の趣味として広く普及していました。

江戸時代になると盆栽の栽培や園芸が盛んになり、盆栽が描かれた浮世絵も残っています。

明治時代以降も盆栽は粋な趣味でありましたが、培養管理・育成には水やりなどの手間や数年がかりの長い時間が必要なために、次第に愛好者は時間的余裕のある熟年層が多くなりました。

1990年代以降は盆栽が海外でも注目を集め、英語でもBONSAIと呼ばれるほど人気となっています。



創業明治30年 仕出し・宅配の鶴鳴館

鶴鳴館

鶴家

☎ 099-294-2500

〒891-1304
鹿児島市本名町 855-2

Mail : yuzo@kakumei.com

URL : <http://cataering-kakumei.com/>

受付時間 : 9:00~17:00
配達時間 : 10:00~18:00



編集担当 : 小山雄三・持留智子